

補助事業番号 23-1-022

補助事業名 平成23年度 引きこもり・不登校に対する支援活動 補助事業

補助事業者名 社団法人 青少年健康センター

## 1. 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

この事業は、引きこもり状態となっている若者たちが引きこもり状態から抜け出し、家族友人ひいてはコミュニティ、更には職場の人々とも交遊し合い、社会への再参加が果たされるようになることを目的としています。

### (2) 実施内容

#### ア・引きこもりを対象とした自立支援事業

##### ◎ “茗荷谷クラブ”

週2回デイケアとして新しい人間関係の中で自信を取り戻すことを目的に活動している“茗荷谷クラブ”は、ディスカッション・ゲーム・スポーツ・旅行など年間延98回開催。参加メンバー数1121名。

##### ◎ “若者オープングループ”

引きこもりから立直りかけているメンバー0B達が定期的に参集してディスカッション・交流を行い、翌日からの意欲を高め合う“若者オープングループ”は、ベテランカウンセラーのオーガナイズの下で原則月2回。年間延23回開催。参加者数103名。

#### イ・社会参加支援プログラム開催事業

当法人のデイケア活動の0B達数名を1グループとし、週末都心部のオフィスビル内の清掃を委ねられベテランケアスタッフの指導の下、厳しい条件下の仕事を遂行する体験を通じ、社会参加への道筋を探りました。実施延回数32回参加延メンバー数122名。

#### ウ・思春期カウンセリング講座

引きこもりの子供をかかえる親(特に母親)並びに地域社会の方々も対象とし、思春期カウンセリングの知識を体得する為の各種講座を開催しました。

・基礎講座：藤堂宗継先生(臨床心理士)を講師に招き、前・中・後期各8回開催、通期8名が受講。

##### ・理論講座

前期：“カウンセリングの理論と実際－最近の主な心理療法から学ぶ－”は、大島朗生先生(臨床心理士)を講師とし5回開催 延参加者数38名。

中期：“人のこころを理解するために”をテーマに藤堂宗継先生が4回の講義 延24名受講。

後期：“家族グループカウンセリング(2)” 田村毅先生(精神科医・医学博士)が4回の講義 延約45名が受講。

・特別講座

中期：“ひきこもり援助論-最近のうつ病理解-”をテーマに、斎藤環先生(精神科医)が4回講義81名受講。

・特別体験講座

後期：“サイコドラマ”を藤堂宗継先生(臨床心理士)が2日間集中講義28名受講。

エ. 講演会・シンポジウム

平成23年12月17日、筑波大学東京キャンパスの講義室を会場に、未曾有の大災害となった東日本大震災から半年が過ぎ、ケアの現場はどのようなものだったのか？また被災地の引きこもりの状況は？を、テーマに実際に被災地に足をお運びになった方々をシンポジストに招き、「東日本大震災後のメンタルヘルス」と題し、講演会・シンポジウムを開催 67名受講。

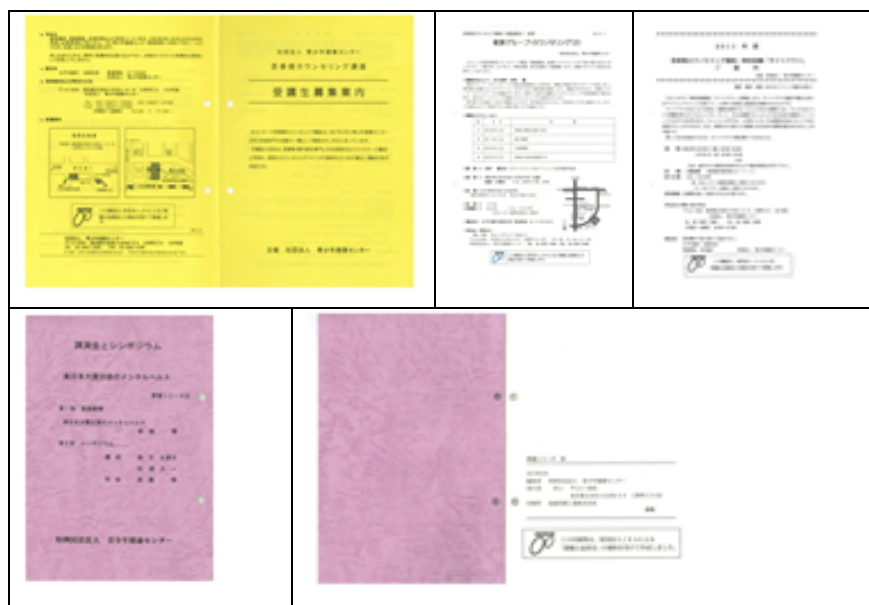
2. 予想される事業実施効果

引きこもり本人たち、親・家族、それぞれが活動に定常的に参加される中で、家族や周囲の人々とのコミュニケーションもスムーズになり、鬱屈した気分から解放され、それぞれのペースで社会再参加の道筋を探ることが出来ました。

また支援活動従業者や地域社会の人たちに対し、引きこもりについて、知識の普及啓発を行ったことにより、より広く問題提起が出来たものと考えます。

3. 本事業により作成した印刷物等

PR用ちらし2種類及び、講演会・シンポジウムを採録した小冊子



#### 4. 事業内容についてのお問い合わせ

団体名：社団法人 青少年健康センター(セイショウネンケンコウセンター)

住所：112-0006 東京都文京区小日向 4-5-8 三軒町ビル 102

代表者：会長 齋藤 友紀雄(サイトウ ユキオ)

担当部署：事務局(ジムキョク)

担当者名：事務局長 佐藤 彰(サトウ アキラ)

電話番号：03-3947-7636

F A X：03-3947-0766

E-mail：[info-sk@mv.biglobe.ne.jp](mailto:info-sk@mv.biglobe.ne.jp)

U R L：<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~skc>

## 引きこもりを対象とした自立支援事業



ソフトボール大会

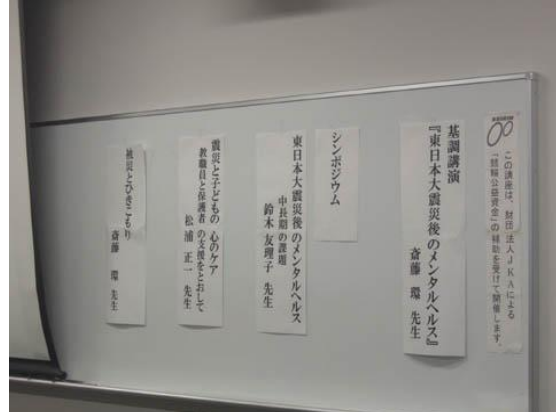


体力作りのバレーボール

## 講演会・シンポジウム「東日本大震災後のメンタルヘルス」



被災地からの来聴者も熱心に聴講



シンポジウムプログラム

## 思春期カウンセリング講座



講座「ひきこもり援助論」

[活動の紹介](#)